

「スポーツ推進と障がい者スポーツに関するアンケート」の実施結果報告

地域連携部スポーツ推進課及び子ども・福祉部障がい福祉課が実施しました「スポーツ推進と障がい者スポーツに関するアンケート」について、873名の方からご回答をいただきました。

アンケート結果をとりまとめましたので、ご報告します。

アンケート概要

1 アンケート実施期間

令和4年9月21日から令和4年10月10日まで

2 アンケート回収状況

対象者数 1,385人

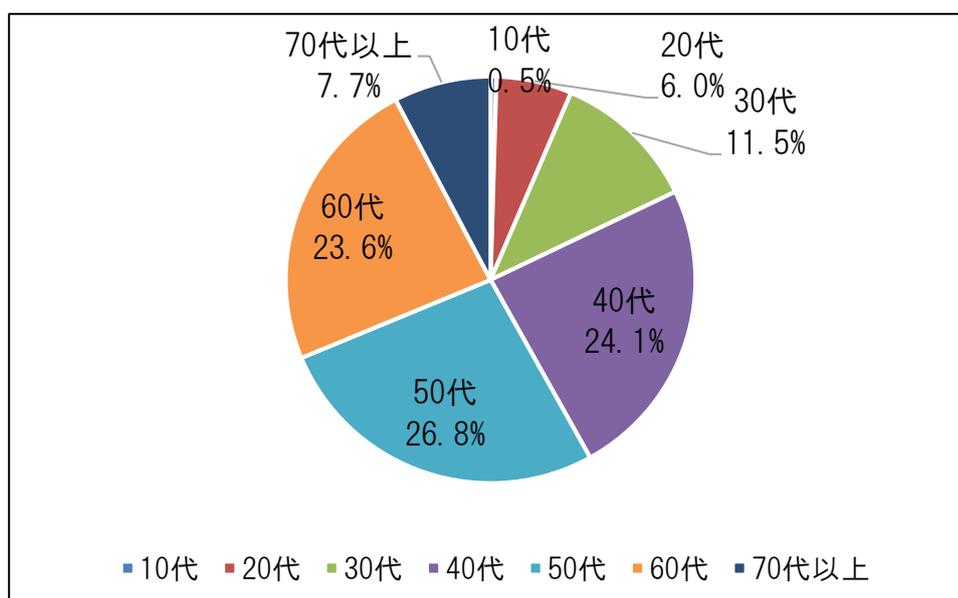
回答者 873人

回答率 63%

3 回答者の属性

【年代別】

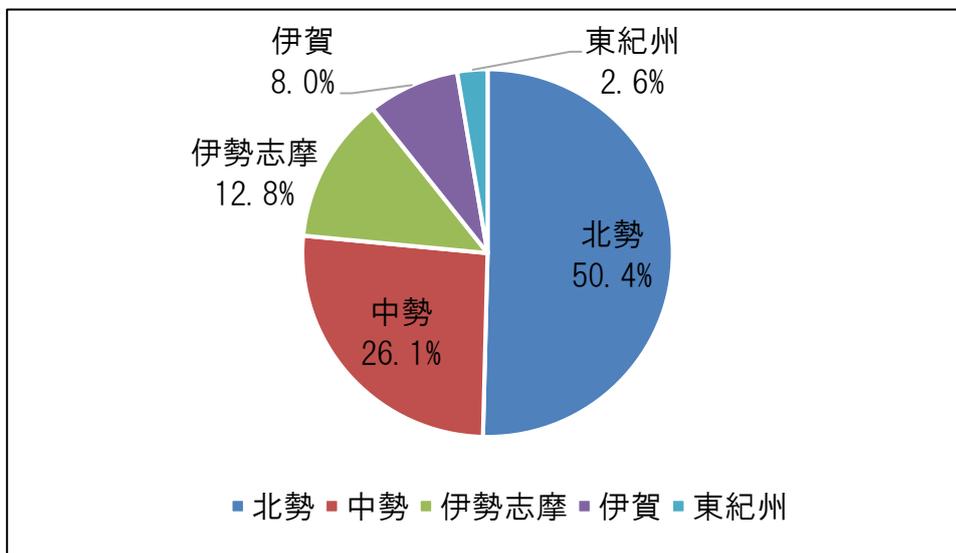
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	4人	52人	100人	210人	234人	206人	67人
割合	0.5%	6.0%	11.5%	24.1%	26.8%	23.6%	7.7%



※割合は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【地域別】

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	440 人	228 人	112 人	70 人	23 人
割合	50.4%	26.1%	12.8%	8.0%	2.6%



※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

※割合は、少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

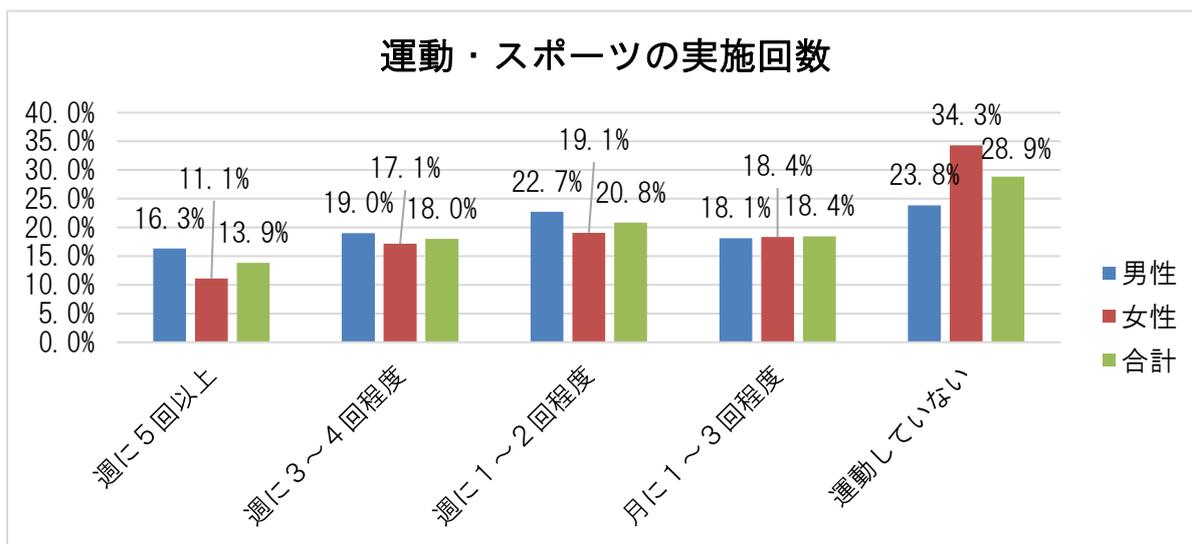
4 アンケート集計結果

Q1 運動・スポーツの実施回数について

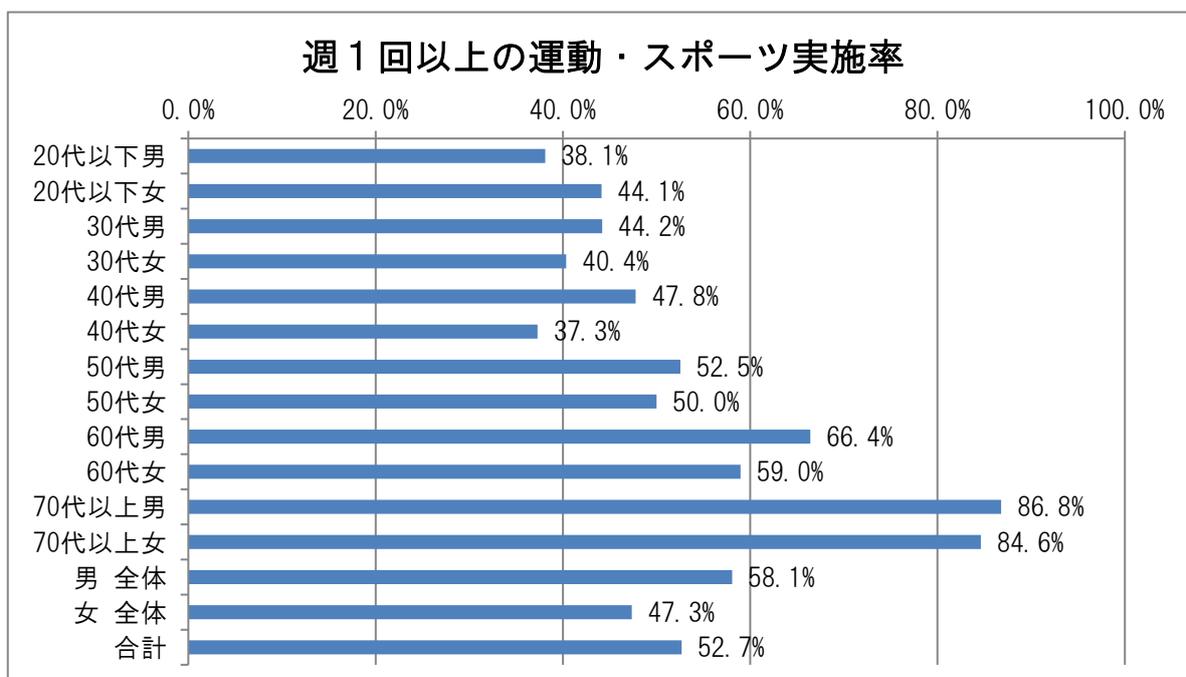
あなたは、この1年間でどの程度運動やスポーツを実施しましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

なお、「運動していない」とお答えいただいた方は、Q3へお進みください。

※運動やスポーツの例：少し長めの距離の徒歩や自転車による通勤・買い物、ウォーキング（散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなどを含む）、階段昇降、ランニング、体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操等）、縄跳び、ダンス、ゴルフ、キャンプ、釣りなどの様々な運動やスポーツ



全体的に、男性の方が女性よりも運動・スポーツの実施回数が多く、運動している人については男女ともに、週に1~2回の実施割合が最も高くなりました。



週1回以上の運動・スポーツ実施率は52.7%（460人）となりました。また、傾向として、60代以上の年代で実施率が高く、男性の方が女性よりも実施率が高くなっています。

Q2 運動・スポーツの内容について

Q1で「週に5回以上」「週に3～4回程度」「週に1～2回程度」「月に1～3回程度」とお答えいただいた方にお聞きします。あなたが実施している運動やスポーツについて、あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：人)

種目名	男性	女性	合計 (性別未回答者含む)
ウォーキング (散歩・ぶらぶら歩きなどを含む)	218	157	377
日常生活における運動	97	91	189
トレーニング (室内運動器具を使ってする運動等)	62	47	111
体操 (ラジオ体操・美容体操等)	52	63	115
ランニング (ジョギング)	40	8	48
エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス	4	39	43
ゴルフ・ボーリング・ゲートボール	69	10	79
自転車・サイクリング・一輪車	41	9	51
レクリエーションスポーツ	1	0	1
水泳 (アクアエクササイズ、水中ウォーキング含む)	17	8	26
ラケットスポーツ	16	13	29
登山・クライミング・ハイキング	40	9	49
キャンプ・釣り	26	2	28
ボート・カヌー等	3	0	3
キャッチボール	6	0	6
ウィンタースポーツ	10	0	10
ダンス (フォークダンス・社交ダンス等)	0	12	12
屋外球技競技	7	1	8
屋内球技競技	8	2	10
器械体操・新体操	1	2	3
縄跳び	1	5	6
マリンスポーツ	5	0	5
格闘技	3	0	3
武道	4	4	8
グライダー・スカイダイビング	0	1	1
乗馬	0	2	2
パラスポーツ (ボッチャ、フライングディスク等)	2	1	3
その他	8	12	20

実施している種目については、多い順で、「ウォーキング (散歩、ハイキングなどを含む)」が60.7% (377人)、「日常生活における運動 (積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など)」が30.4% (189人)、「体操 (ラジオ体操・美容体操等)」が18.5% (115人) となりました。

※「その他」は、家庭用ゲーム機ソフトのフィットネスや親子での運動遊びなど。

「種目名」は代表種目での表記としているため、設問の種目名とは表記が異なります。

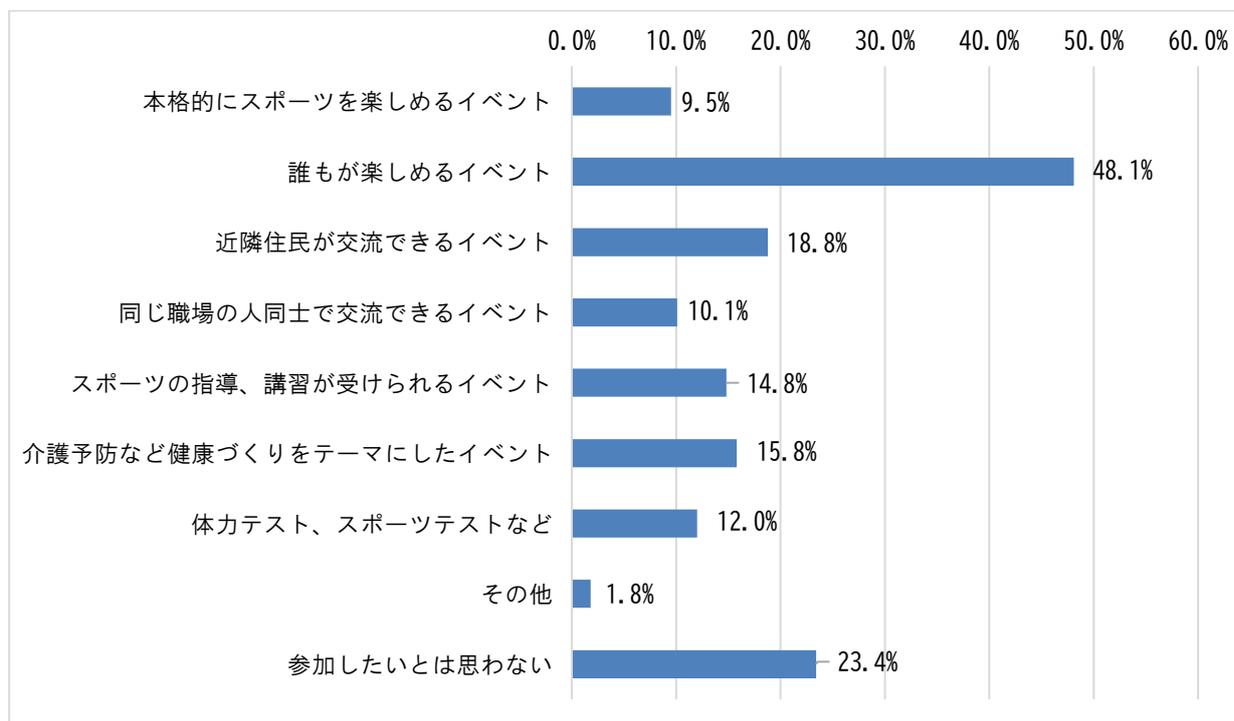
年代別の取組種目（上位5種目）

	1位	2位	3位	4位	5位
20代 以下	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）	ゴルフ・ボーリング・ゲートボール
30代	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）、 自転車・サイクリング	ランニング（ジョギング）、エアロビクス・ヨガ、登山
40代	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）	ランニング（ジョギング）
50代	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）	ランニング（ジョギング）、自転車・サイクリング、ゴルフ・ボーリング・ゲートボール
60代	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）	ゴルフ・ボーリング・ゲートボール	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）
70代 以上	ウォーキング （散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩きなどを含む）	日常生活における運動（積極的に歩くこと・階段利用・自転車利用など）	ゴルフ・ボーリング・ゲートボール	トレーニング （筋力トレーニング、室内運動器具を使ってする運動など）	体操（ラジオ体操・美容体操等）

年代別にみると、全ての年代で最も多い取組種目については、「ウォーキング」であり、次いで「日常生活における運動」となりました。

Q3 スポーツイベントについて

あなたは、今後どのようなスポーツイベントに参加したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

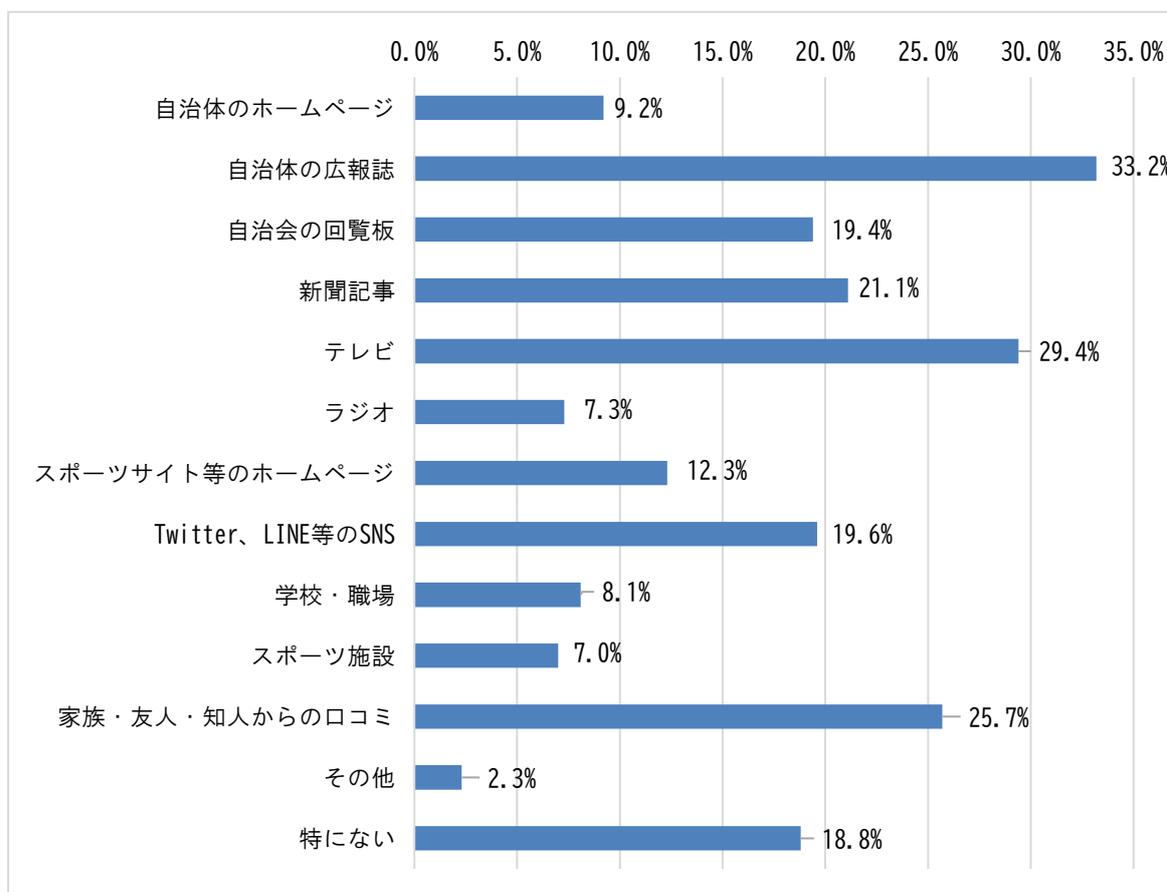


※「その他」は親子で一緒に参加できるイベントや簡単にできる運動講座など。

今後参加したいと思うスポーツイベントについては、多い順で、「誰もが楽しめるイベント（ウォーキングイベントやレクリエーション的なスポーツイベント等）」が48.1%（420人）、「近隣住民が交流できるイベント（学校・地域の運動会や地域主催のスポーツ体験会等）」が18.8%（164人）、「介護予防など健康づくりをテーマにしたイベント」が15.8%（138人）となりました。

Q4 スポーツ情報について①

あなたが、スポーツに関する情報はどこで入手していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

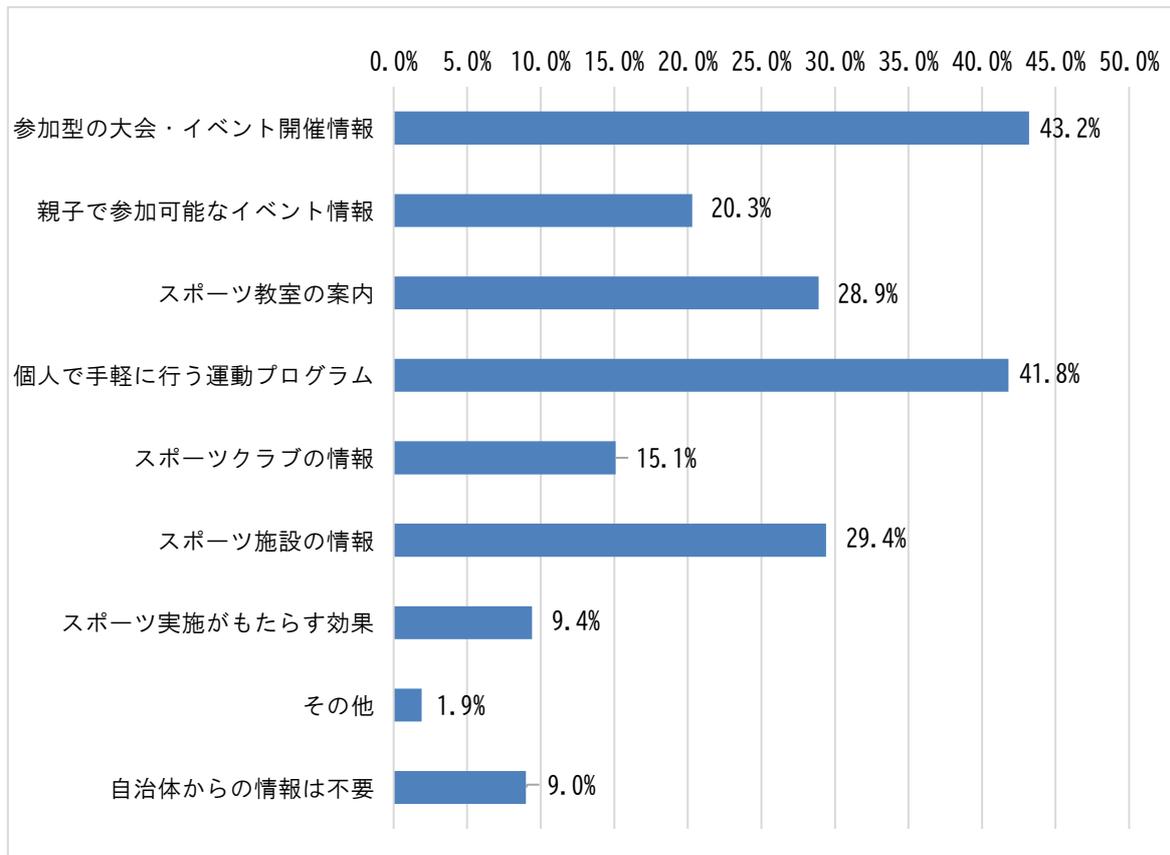


※「その他」はスポーツ雑誌や子どもの学校からの配布物など。

スポーツに関する情報の入手方法については、多い順で、「自治体の広報誌」が33.2% (290人)、「テレビ」が29.4% (257人)、「家族・友人・知人からの口コミ」が25.7% (224人) となりました。

Q5 スポーツ情報について②

あなたは、自治体からどのようなスポーツ情報があるとスポーツに取り組みやすいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

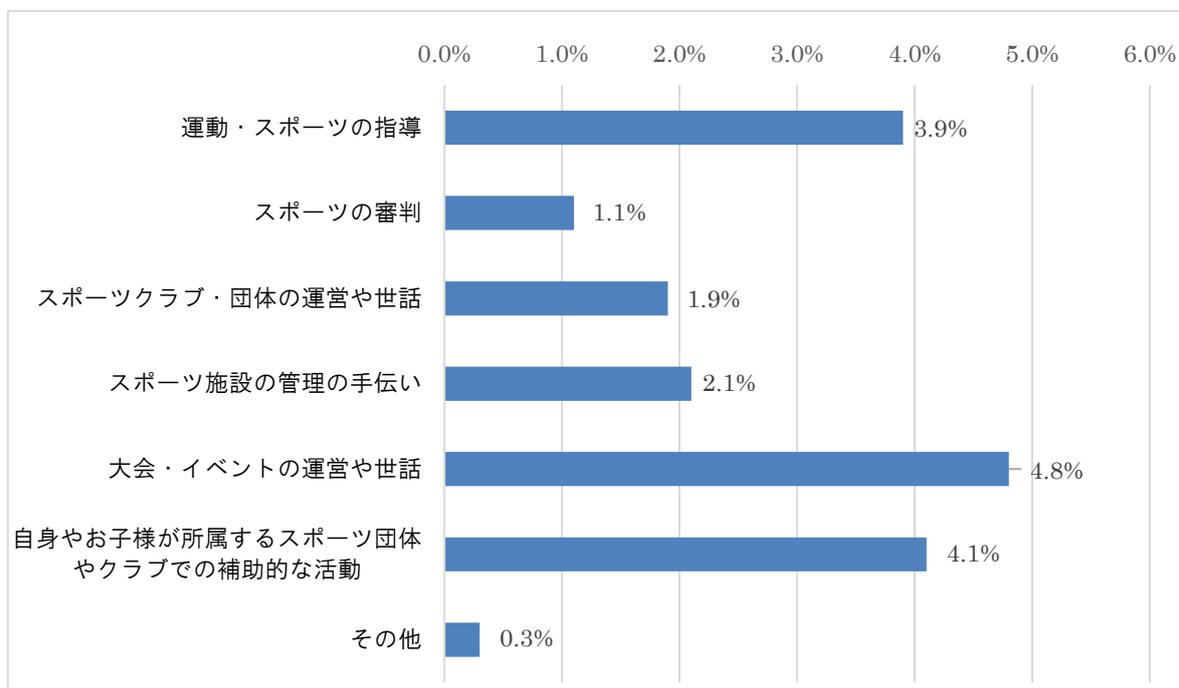


※「その他」は近隣のウォーキングコースの情報や犬と一緒に参加できるイベント情報など。

自治体から提供してほしいスポーツに関する情報については、多い順で、「参加型の大会・イベント開催情報」が43.2%（377人）、「個人で手軽に行う運動プログラム」が41.8%（365人）、「スポーツ施設の情報」が29.4%（257人）となりました。

Q6 スポーツ実施を支える活動について

あなたが、この1年間で行った運動・スポーツに関するボランティア活動はどのような内容ですか。あてはまるものをすべて選んでください。（有償・無償は問わず、お答えください。）



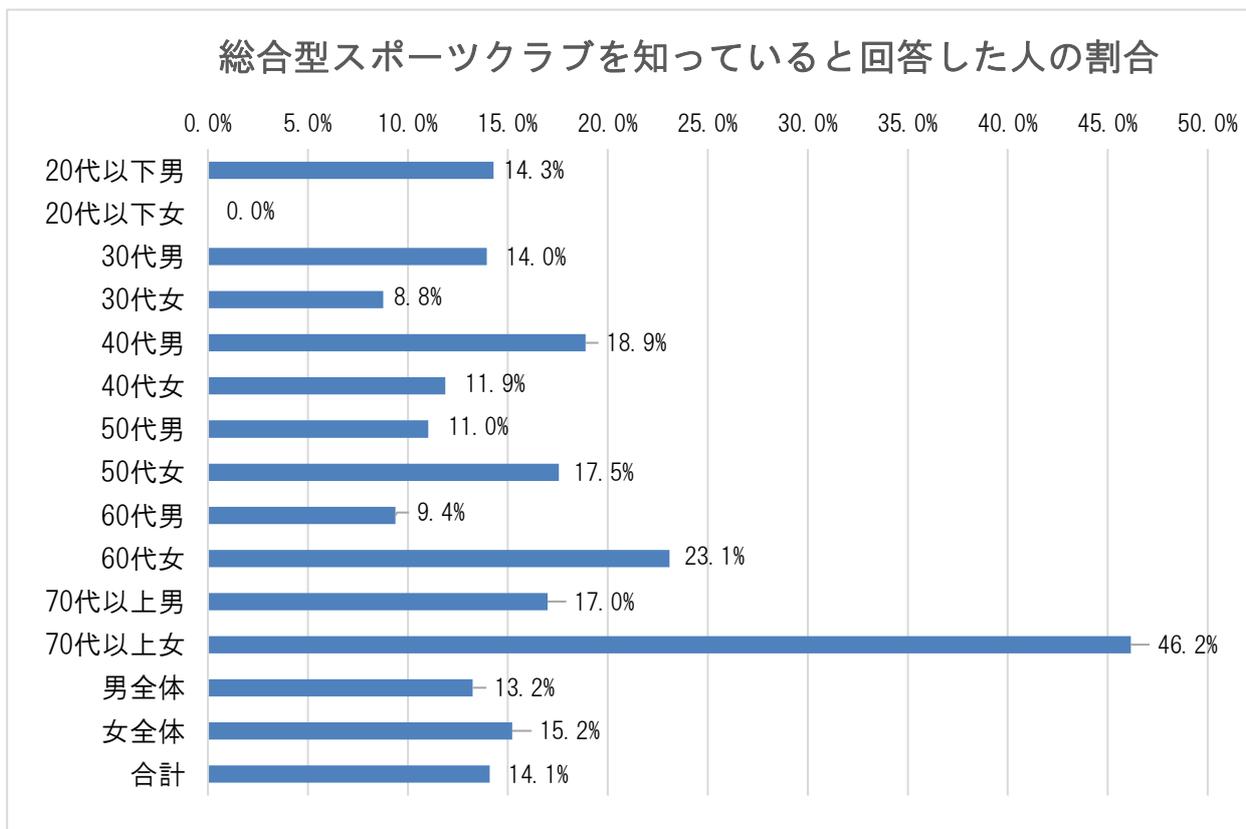
※「その他」は高齢者施設で運動指導など。

この1年間で行った運動・スポーツに関するボランティア活動については、多い順で、「大会・イベントの運営や世話」が4.8%（42人）、「自身やお子様ที่所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動（練習や大会での参加者の送迎、参加者の飲料や弁当の準備、活動場所や施設の予約・手配、指導や審判の補助、役員や会計係、ウェブサイトやチラシ作成等）」が4.1%（36人）、「運動・スポーツの指導」が3.9%（34人）となりました。

また、運動・スポーツに関するボランティア活動に参加していない割合は、87.3%（762人）となりました。

Q7 総合型地域スポーツクラブについて

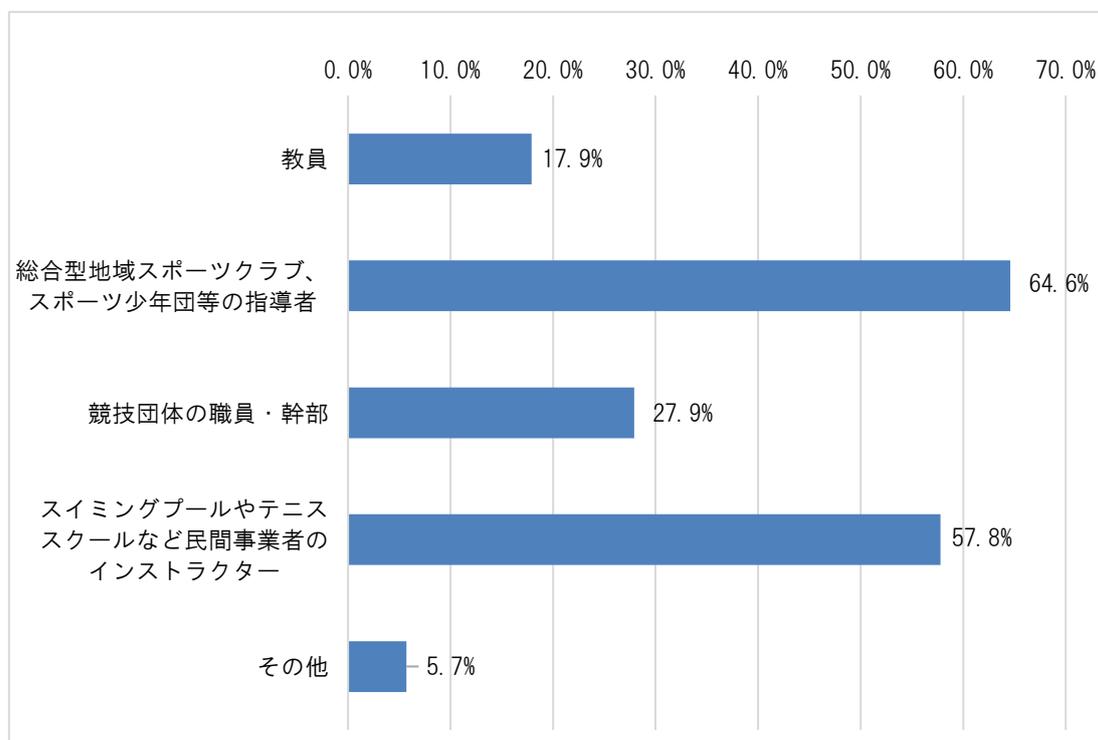
あなたは、総合型地域スポーツクラブを知っていますか。



総合型地域スポーツクラブを知っていると回答した割合の合計は、14.1%（123人）となりました。

Q8 地域における子どもの運動・スポーツについて

国から中学校における休日運動部活動の段階的に地域移行していく方針が示されるなど、地域において子どもたちの運動・スポーツの機会を確保が求められています。あなたは、地域において子どもたちが運動・スポーツに親しむためには、どの指導者から指導を受けてほしいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

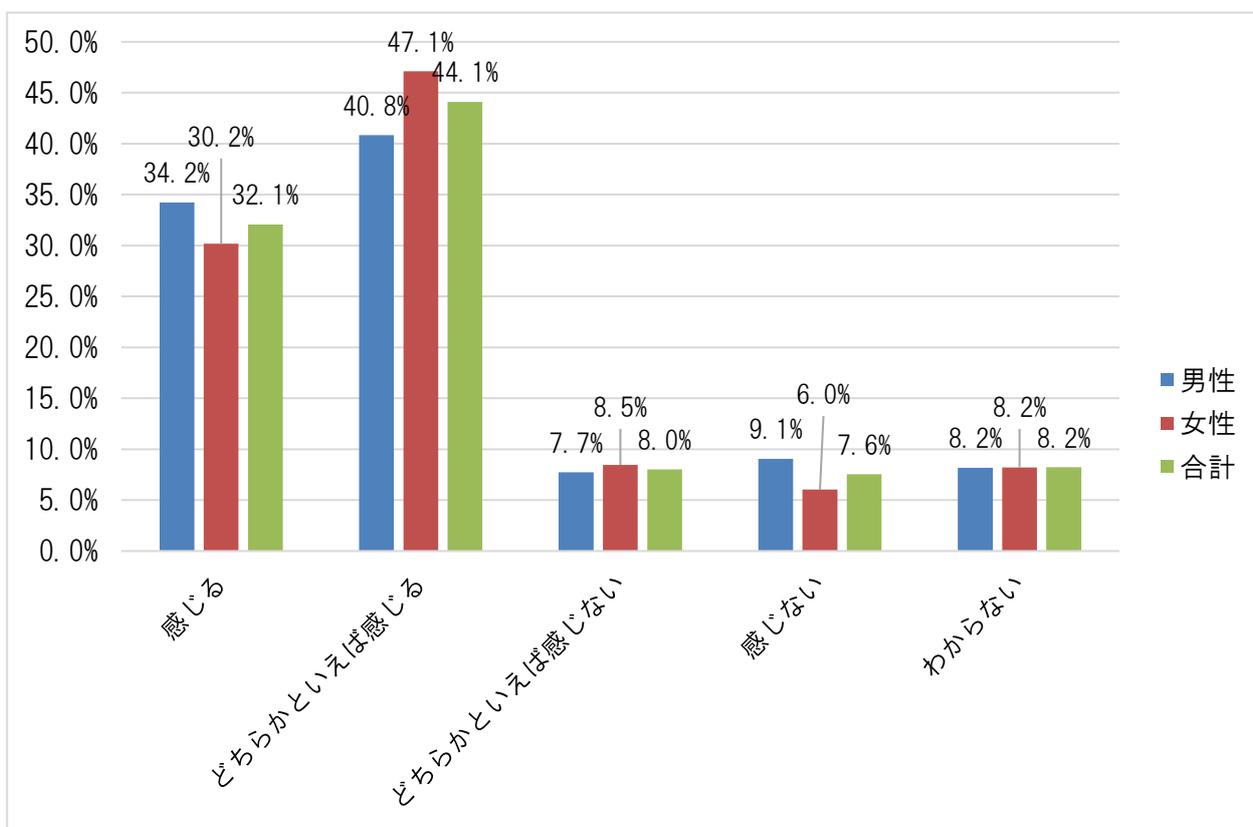


※「その他」はプロスポーツ選手やスポーツ経験者など。

地域の子どもたちが指導を受けてほしい指導者については、多い順で、「総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等の指導者」が64.6%（564人）、「スイミングプールやテニススクールなど民間事業者のインストラクター」が57.8%（505人）、「競技団体の職員・幹部」が27.9%（244人）となりました。

Q9 スポーツについて

あなたは、スポーツ（「する」・「みる」・「支える」）を通じて夢や感動を感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選んでください。



スポーツを通じて夢や感動を「感じる」または「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合の合計は、76.2%（665人）となりました。

Q10 性別について

男女の性別によるアンケート結果の分析のため、あなたの性別（自認する性）をお答えください。

【男性 453人（51.9%）】

【女性 414人（47.4%）】

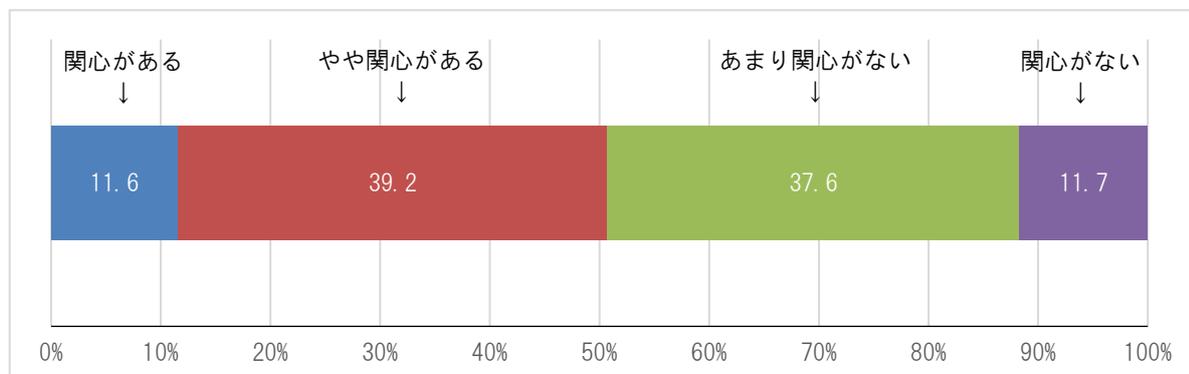
【その他 6人（0.7%）】

（合計 873人）

Q11 障がい者スポーツへの関心度について

障がい者スポーツとは、障がいがあってもスポーツができるように障がいに応じて競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障がいを補ったりする工夫等がされたスポーツのことですが、あなたは障がい者スポーツに関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

(単位：%)



関心がある (計) 50.8%

関心がない (計) 49.3%

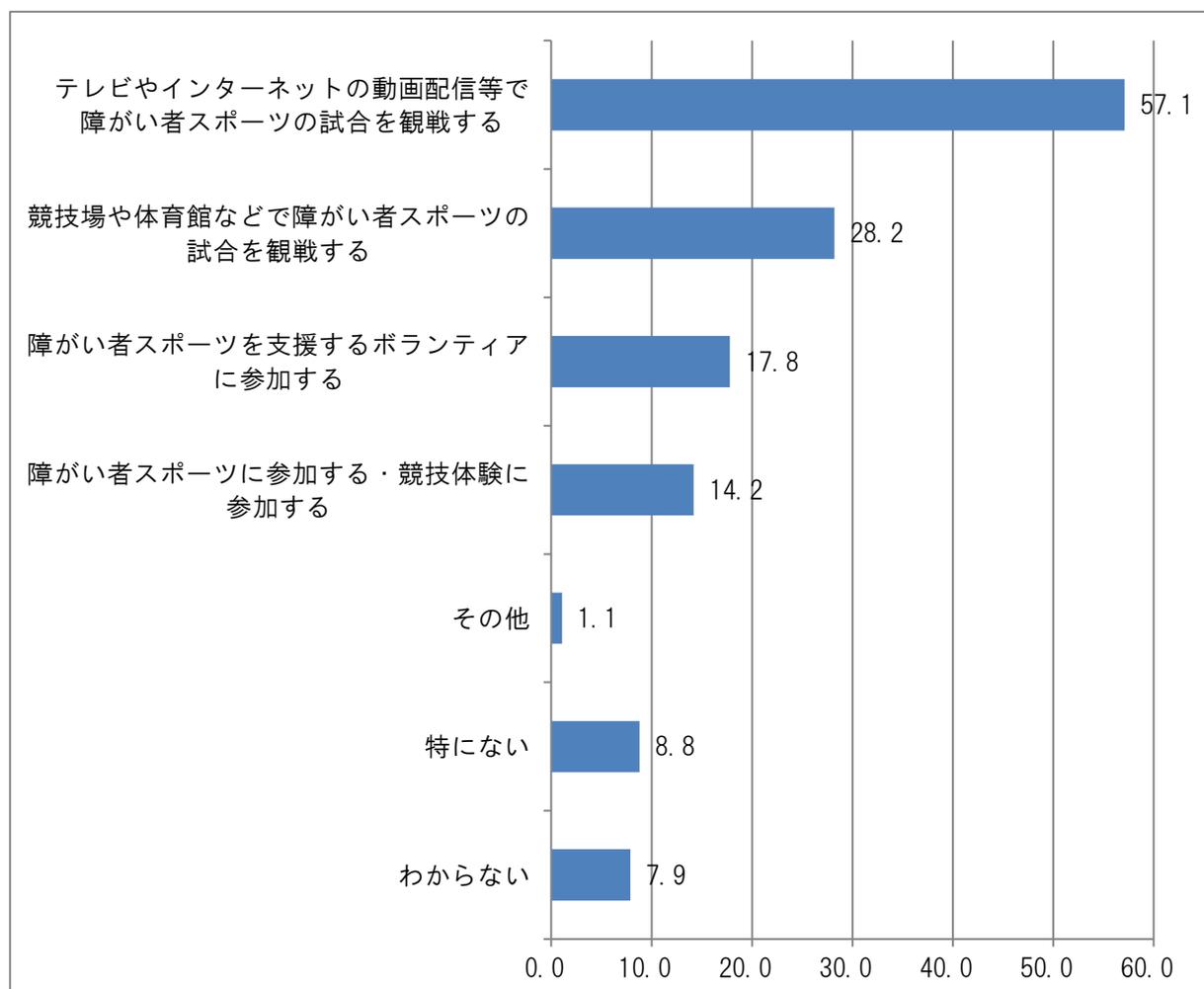
障がい者スポーツへの関心度についてお聞きしたところ、関心がある (計) (「関心がある」と「やや関心がある」の合計) が 50.8%、関心がない (計) (「あまり関心がない」と「関心がない」の合計) が 49.3%となりました。

Q12 障がい者スポーツに関して経験してみたいことについて

Q11で「関心がある」「やや関心がある」と答えた方にお聞きします。

あなたは、これからどのようなことを経験してみたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



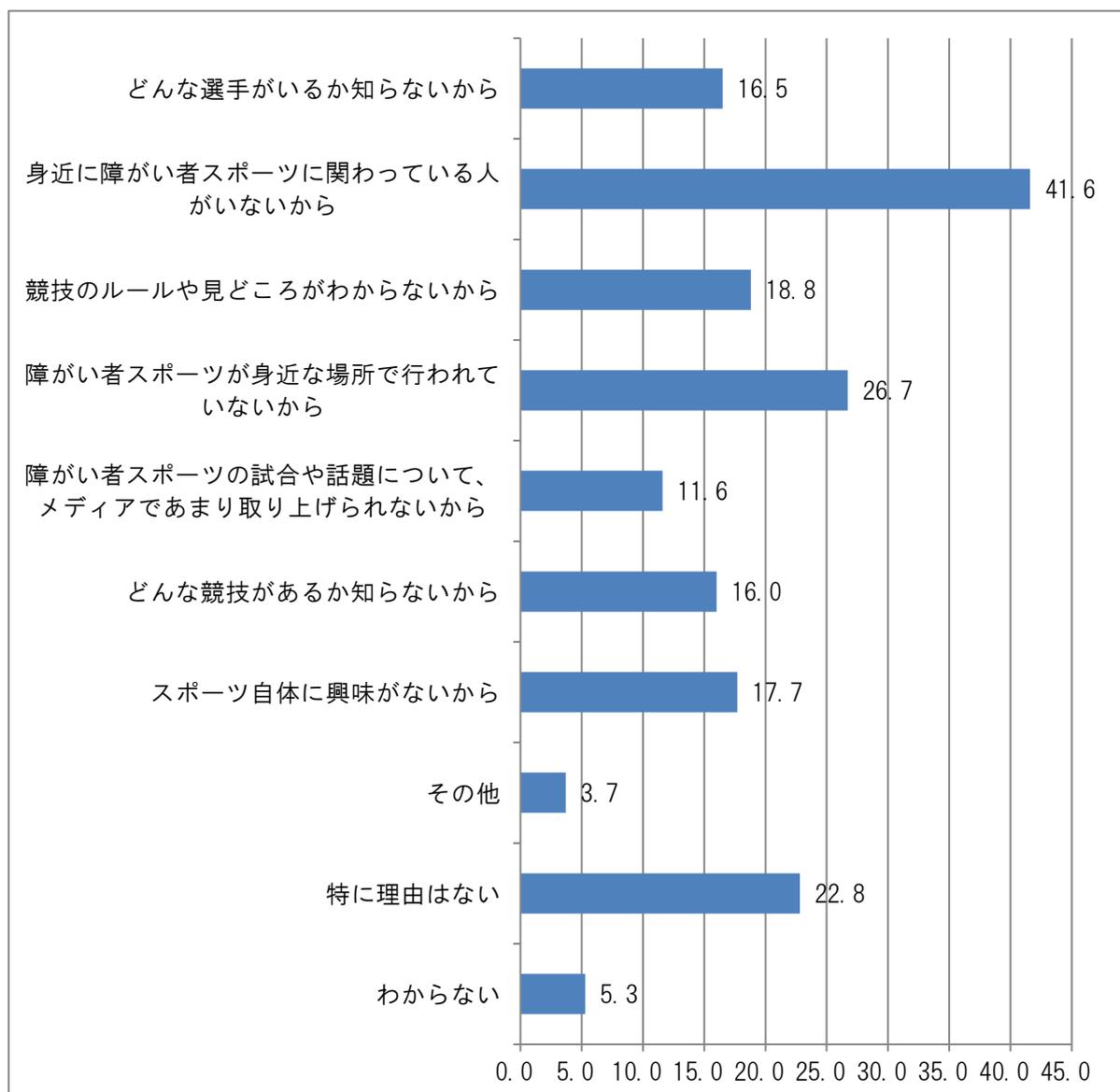
Q11で「関心がある」「やや関心がある」と回答した方を対象に、どのようなことを経験してみたいかをお聞きしたところ、「テレビ等で障がい者スポーツの試合を観戦する」(57.1%)が最も多く、次いで「競技場等で障がい者スポーツの試合を観戦する」(28.2%)、「ボランティアに参加する」(17.8%)、「障がい者スポーツ・競技体験に参加する」(14.2%)の順となりました。

Q13 障がい者スポーツに関心がない理由について

Q11で「あまり関心がない」「関心がない」と答えた方にお聞きします。

あなたが、障がい者スポーツに関心がない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



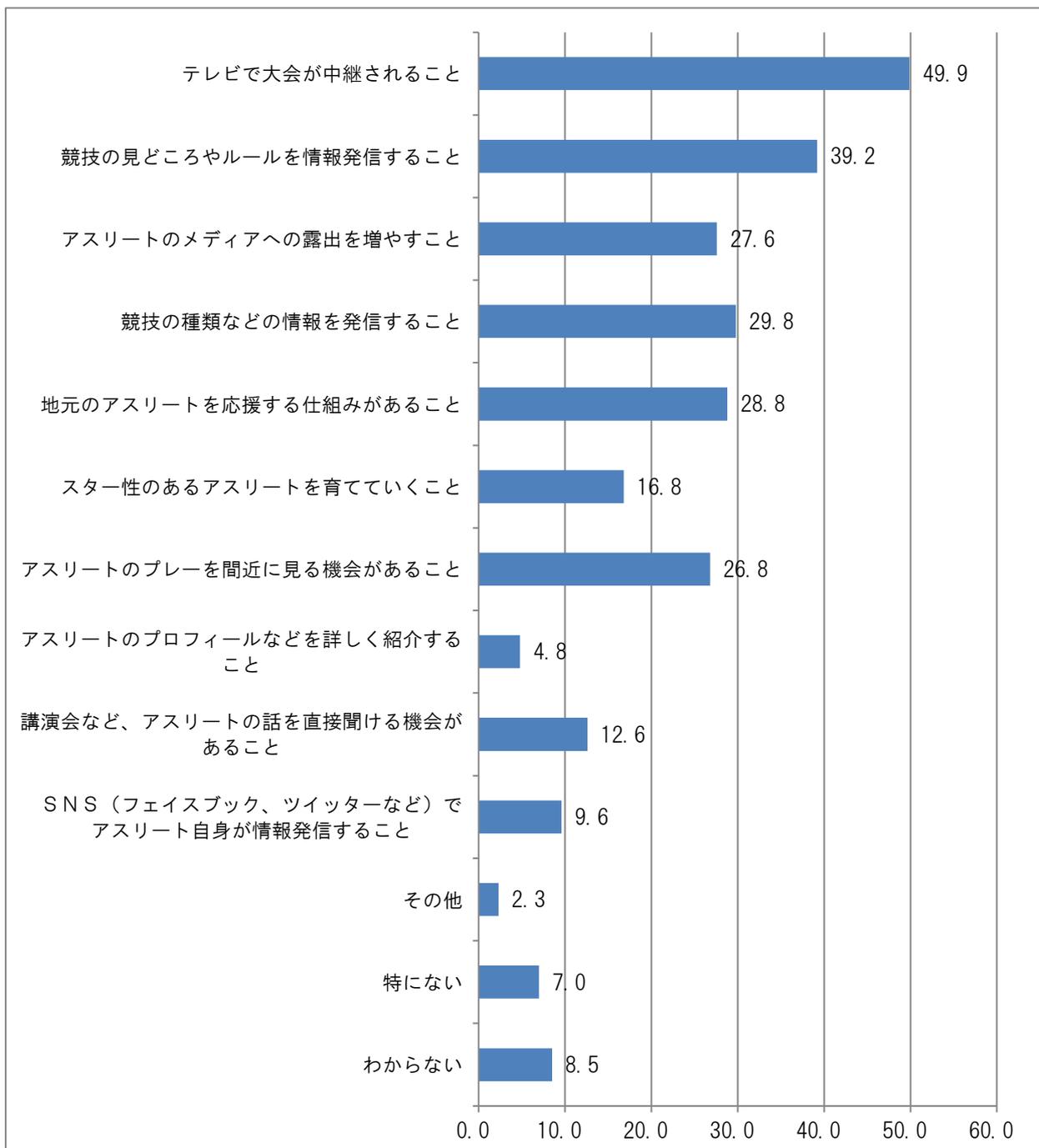
Q11で「あまり関心がない」「関心がない」と回答した方を対象に、障がい者スポーツに関心がない理由をお聞きしたところ、「身近に障がい者スポーツに関わっている人がいないから」(41.6%)が最も多く、次いで「障がい者スポーツが身近な場所で行われていないから」(26.7%)、「競技のルールや見どころがわからないから」(18.8%)、「スポーツ自体に興味がないから」(17.7%)、「どんな選手がいるか知らないから」(16.5%)、「どんな競技があるか知らないから」(16.0%)の順となりました。

また、「特に理由はない」(22.8%)という回答も多くありました。

Q14 障がい者スポーツへの関心を高める取組について

あなたは、どのような取組があれば障がい者スポーツへの関心が高まると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)

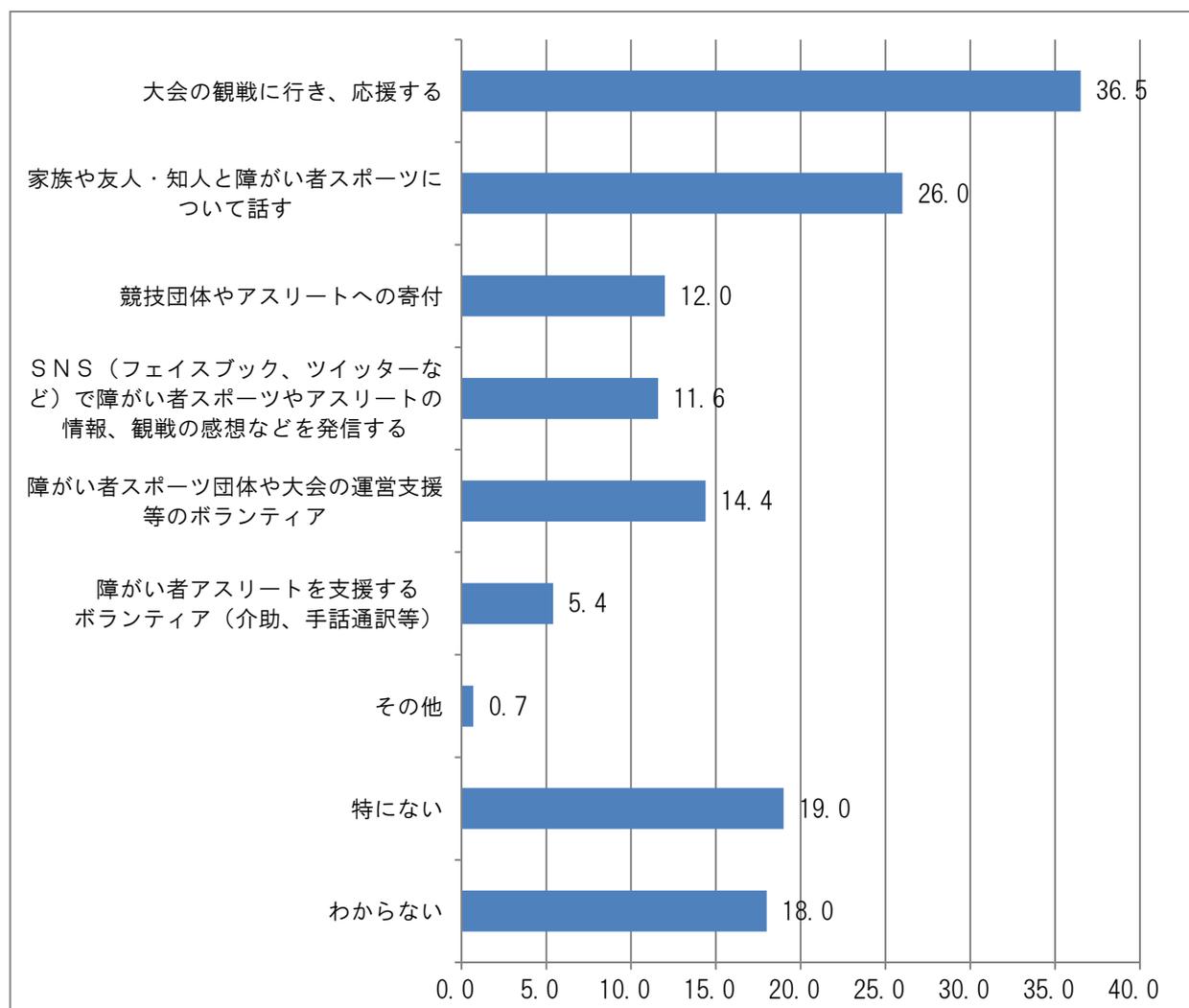


障がい者スポーツへの関心を高める取組についてお聞きしたところ「テレビで大会が中継されること」(49.9%)が最も多く、次いで「競技の見どころやルールを情報発信すること」(39.2%)、「競技の種類などの情報を発信すること」(29.8%)、「地元のアスリートを応援する仕組みがあること」(28.8%)、「アスリートのメディアへの露出を増やすこと」(27.6%)、「アスリートのプレーを間近に見る機会があること」(26.8%)の順となりました。

Q15 障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援について

あなたが、障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援としてできることはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(単位：%)



障がい者スポーツ団体や障がい者アスリートへの支援についてお聞きしたところ「大会の観戦に行き、応援する」（36.5%）が最も多く、次いで「家族や友人・知人と障がい者スポーツについて話す」（26.0%）、「障がい者スポーツ団体や大会の運営支援等のボランティア」（14.4%）、「競技団体やアスリートへの寄付」（12.0%）、「SNSで障がい者スポーツやアスリートの情報、観戦の感想などを発信する」（11.6%）の順となりました。

また、「特にない」（19.0%）や「わからない」（18.0%）という回答も多くありました。